水色の日々。

雨月綺雪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

水色の日々。

【Ｎコード】

Ｎ５１４８Ｉ

【作者名】

雨月綺雪

【あらすじ】

ある少女の幸せな日々。

「水色…」
「ん～？」
「…。んーん。何も」
沈黙は好きだ。
ずっと独りだったボクは静寂を好む。
だけど、誰かのいる空間でずっとの静寂は耐えられない。
だって、沈黙は相手の気持ちを読み取る術を与えてくれない。
あ、じゃあ沈黙の事、嫌いなのかもしれない。
…やっぱり難しい。
独りに慣れてしまうと、自分の気持ちさえ詮索しないから、
戸惑ってしまう。
誰かが隣にいるというのは何年ぶりだろうか。

「ねぇ、みず？」
少女の柔らかく心地いい声が耳をくすぐる
「何…」
「あのねぇ…」
そこで少女はうふふ。と笑う
それにつられてボクの頬も緩んでしまう
「いまねぇ、とっても幸せなの～」
少女はクスクスと笑いボクの頬をつついた
「みずも幸せ～？」
「うん、幸せ」
そっけない自分の声が嫌いだ
この愛おしい少女を不快にしてる気がするから。
それから少女の声は聞こえない
きっと夢でも見ているのだろう

彼女にしか見えない素敵な夢…

「あ、バスきた～」
少女が立ち上がり、ぬくもりが消える
「じゃあね。みず。」
「あ…」
「ん？
みずも早く帰らなきゃだめよ～？
女の子なんだから」
少女は笑い手を振る
「ま、またね。」
「あ、うん。またね」
少女は思い出したように呟き、バスへと乗った

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5148i/

水色の日々。

2011年1月20日02時57分発行